



Vol.34

テクノロジーと法の未来へ

FACULTY OF
GLOBAL INFORMATICS

国際社会が抱える問題を「情報の仕組み」と「情報の法学」の視点で
分析・解明し、解決策を論理的に構築する、ITL独自の学びに迫ります。

はじめに

私は岡嶋ゼミに所属しており、神奈川県観光協会と国際情報学部の間で締結された「神奈川県内の観光動向に関する実態調査・ソリューション提案」における連携協定のもと、横浜市立大学の学生と共同で、「鎌倉エリアにおけるオーバートゥリズムの分散」をテーマにしたプロジェクトを進めています。



鎌倉の観光課題に挑む Webサイト制作

国際情報学部国際情報学科4年
私立佼成学園女子高等学校(東京都)出身

はたなか あいみ
畑中 愛美



岡嶋ゼミメンバー

横浜市立大学が、誰がどこから来ているのかといった混雑エリアの人流データや調査データを分析。それを踏まえて岡嶋ゼミが、観光集中地区からその他の地域へ観光客を誘導するコンテンツなどを企画するというプロジェクトです。神奈川県観光協会、横浜市立大学、中央大学(岡嶋ゼミ)の3者が分析・企画内容を協議し、かながわDMOが年度内にもツアー企画などのビジネスプランに落とし込んでいく予定となっています。私はその中で、観光客の流れを情報技術で適切に誘導するWebサイト制作の共同研究に挑戦しています。本稿では、私がゼミで取り組んでいる卒業制作の内容を紹介します。

ゼミ活動とプロジェクトのはじまり

岡嶋ゼミでは、社会課題に対して情報技術をどう応用できるかをテーマに、各自が自由な発想で問いを立て、調査・分析・実装を行います。普段のゼミで

は、発表やディスカッションを通じて互いの意見を交換しながら、研究の精度を高めていきます。研究の初期段階では戸惑いもありましたが、議論を重ねるうちに自分の興味が明確になり、主体的に取り組めるようになりました。今回のプロジェクトでは、神奈川県観光協会・横浜市立大学との協働で、観光の偏在化という地域課題に取り組んでいます。プロジェクト開始時のキックオフミーティングでは、観光協会の方から、鎌倉の現状や方針について貴重なお話を伺いました。とくに印象的だったのは、「鎌倉をリスペクトする人々による賑わいであれば、たと



ゼミメンバーで小学生にScratch(ビジュアルプログラミング言語)を教えている様子

え来訪者数が増えてもオーバートゥリズムとは見なされない」という言葉です。この考えに触れ、単なる人数制限ではなく、観光客の質や行動に注目する視点の大切さを実感しました。

研究の問いと仮説

私が立てた問いは、「夏と秋に鎌倉を訪れる中国・米国の個人旅行者が利用したくなるWebサイトの特徴とは何か?」というものです。観光客の来訪時期や行動様式に注目し、混雑を避けながらも、地域の魅力を深く体験できるような観光の在り方を模索していきます。

仮説として、「ユーザーの興味・属性・旅行時期に応じて、自分だけの観光ルート」を提案するWebサイト（パーソナル観光ルートサイト）が、個人旅行者の利用意向を高め、観光体験の質を向上させながら人の流れの分散に寄与するのではないかと考えました。

このWebサイトでは、訪れたいスポットを選択すると、その近隣であり知られていない穴場スポットを自動で提案し、オリジナルの観光ルートをマップ上に表示します。さらに、多言語対応により外国人旅行者にも使いやすく設計しており、短時間で効率良く、かつ満足度の高い旅を実現することをめざしています。

調査と開発のプロセス

研究は「調査↓試作↓検証」の流れで進める予定です。まず、訪日外国人旅行者が日本観光で求める情報や使いやすい仕組みを既存データや関連研究から分析するほか、必要に応じて利用者調査からも分析します。その上で、鎌倉の定番観光地と穴場スポットを組み合わせて提示する仕組みを設計しま

す。次に、訪れたいスポットを選ぶと周辺の穴場を提案し、効率的な観光ルートを自動生成するWebサイトを試作します。多言語対応や直感的な操作性も重視し、短時間で満足度の高い計画が立てられることをめざします。最後にプロトタイプを検証し、パーソナライズ性や混雑回避、新しい発見の提供といった観点から有効性を確認し、鎌倉のオーバーツーリズム解消に資する仕組みを提案していきます。

今後の展望と学び

この取り組みを通して、オーバーツーリズムという課題の本質は「人が多いこと」そのものではなく、「行動が一部に偏ること」にあると感じました。また、観光体験の満足度と地域の受け入れ環境を両立させるためには、テクノロジーによる「導き方」の工夫が今後ますます重要になるとも実感しています。

本研究を通して得た視点は、今後どのような分野に進んでも役立つと確信しています。情報技術と社会的課題を接続し、人の行動や選択に寄り添う仕組みをデザインするという姿勢を大切

にしなが、みずからのキャリアにもつなげていきたいと思っています。

最後に

日々丁寧なご指導をくださっている岡嶋先生、そして、研究を進める上で切磋琢磨させてくれている岡嶋ゼミのメンバー、研究を支えてくださった先

生方や事務室の方々、さらには、このような実践的な研究の機会をくださった神奈川県観光協会の皆さま、協力してくださった横浜市立大学の皆さまに心より感謝申し上げます。この経験を通して得た学びを胸に、今後も社会と向き合い続ける姿勢を大切にしていきます。



平日でも人通りの絶えない小町通り



平日でも観光客が訪れる鎌倉高校前駅